



wrlz

25.1.12 wrlz

はじめに手紙があつた。
その料金を払うために、切手ができた。

——
ヒソカの黙示録



切手集めの趣味に絡めて、四コマ風の物を作りました。
デジカメによる被写体は、全て私(MRZ)の持ち物です。ついでに色鉛筆のカットの作者も、私です。

文字は、フォント910の物を使っています。

じぶんちに届いた
郵便物の切手を
ハガす。

それは、
キホンであり、
キツカケである。

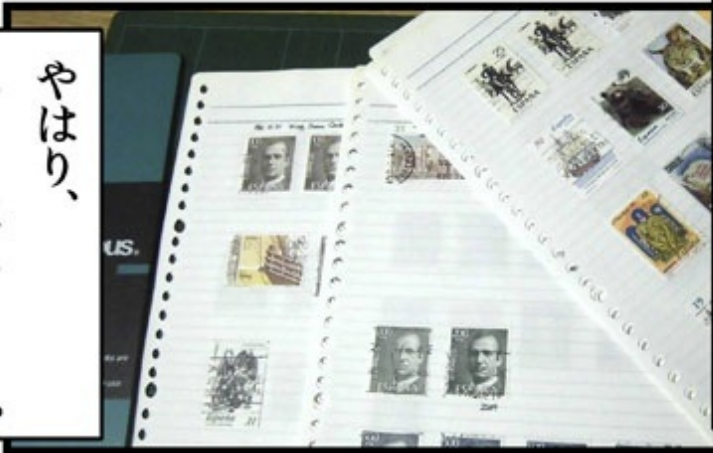
水の取り替えは、
糊が完全に
落ちるまで。

押し花みたいなの
要領で
乾かす。

専用の収納用品も
あるけれど、

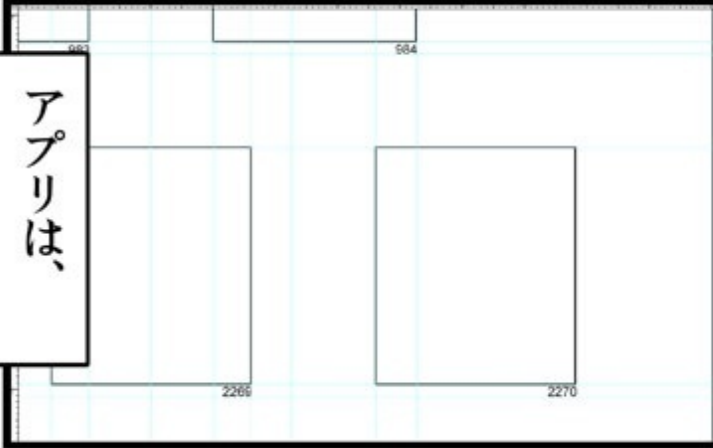
文具店で買える
ルーズリーフでも
全く問題なし！

「保管」の面では
これで問題ないけれど、



やはり、
見た目は良くない。

だから、
「アルバム」を作る。



アプリは、
何でも良い。



どっちを貼ろうか
悩むのも、
また一興。
いっしょ

仕上がると、
なんとなく
カッコ良くなる。



「なんかカッコイイ」は、
立派な理由だ、と思う。



例えばこれは、
旅行のお土産的な
ホルダー。



資料を見ながら
並べ替えても良い。

そのまま保管しても
良いけれど、



ただし、定規は
しっかりした物が
良い。

マウントは、
普通のカッターでも
充分切れる。



「音読みが分からない字は
ググってコピーしちゃう」
というのも、あります。

作業の効率を上げる
コツのひとつに、

「カタログ番号」が必要になる時があります。



私の場合は、ジョイント・イシューをみかけた時です。

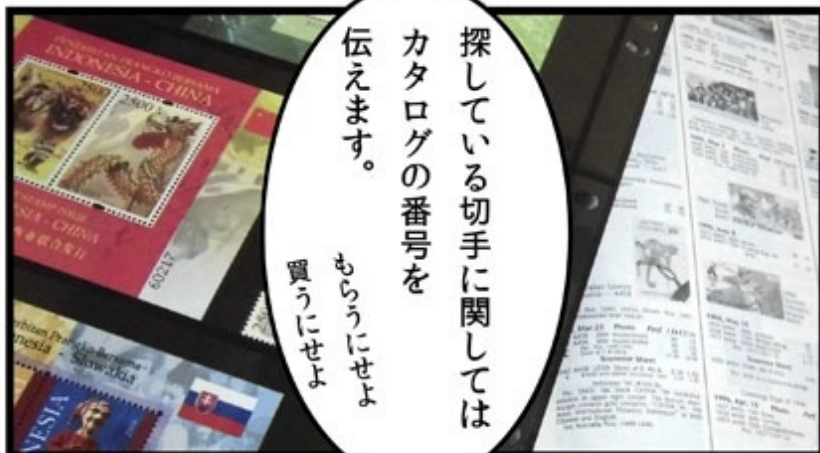
集めている国の切手↓知ってるし、持つてる。



集めていない国の切手↓何も知らん。

探している切手に関しては
カタログの番号を
伝えます。

もらうにせよ
買うにせよ



「この切手のもう片方」みたいな言い方でも通じますが、



「〇〇カタログの何番」と言えば、
確実に伝わります。

本編は、とりあえず以上です。

四コマ風の本編が、ちよつとチャライ感じでしたので、巻末のここに、少し堅苦しいことを書きたいと思います。

「収集」とは何か、ということです。

「単に持っている」と「収集している」との違いの一つは、「長期的な保管」を視野に入れているか否かの違いではないかと、私は考えています。

切手の多くは、「図案の印刷された紙に、糊のりが引いてある」という形態をしています。そういう物を、数十年、手元に置いておけば、カビが生えてしまったり、シミが出来てしまうこともあります。

現代に於いて、デジタルデータを複製したり、そのバックアップを取ることは、とても容易になりました。一方で、何かの「実物」を、長期にわたって保管するための知識も、大切な物です。

そういう内容も、いつかきちんと書けるようになりたいです。

二〇一三年七月

テ

二〇一三年七月 作成

書いた人 バロン・ピエール・東郷(MIN)

写真と絵 右に同じ

配布元 ブクログのpapier

無料配布物です。ダウンロードは、papierのサイト(<http://p.booklog.jp>)から行って下さい。



本文の文字は、フォント910の「F910コミックW4-IPA」を使用しています。